

HP 私たちが目指すもの

～ HP リニューアル ～

国際ソロプチミスト熊本-すみれ

SI熊本-すみれでは、2005年3月HP立上げ以来、約10万回の閲覧をカウントし、賞への応募、質問、入会など、外部への発信はもとより毎月の会員によるリレーエッセイなど、会員間のコミュニケーションを深める役割にもなっています。

しかし、昨今のHPを取巻くSNSのめざましい変化、ソロプチミストの方向性などを踏まえて、14年目の今期、4度目のリニューアルをおこないました。

【HPを取巻く変化】

- ・スマートフォンの普及・・・会員である私たちもパソコンを開くより、スマートフォンで見るものが多くなった。
- ・クラブ内の情報共有としての必須ツール化
- ・エコ化・・・ペーパーレスへの取組

【クラブHPに求められる役割】

入会して5年以内の会員の85%が入会前にHPを閲覧し、入会の判断の1つにしています。では、HPに求められる役割とは。

- ・幅広い対象者への周知
- ・国際ソロプチミストがボランティア団体であるという明確な記載
- ・活動の簡潔でわかり易い説明
- ・クラブの雰囲気を感じられること
- ・知りたい情報が迅速に得られやすい
- ・会員の連絡、コミュニケーションとしてのツール

【私たちの試み】

ソロプチミストに興味を持っていただくこと、多くの方に正しく周知して頂く事、これにはブランディングが重要です。

リニューアルにあたって、ソロプチミストのブランドを確立するために「夢プログラム」また私たち独自のプログラム「すみれプロジェクト」を再考し理解を深めました。

また、忙しい現代女性が求めている利便性、スピード感も考慮にいれました。

- ・スマートフォン対応
- ・視覚に訴える画面…写真、イラスト
- ・わかり易いカテゴリーと説明…ブランドの確立

「夢プログラム」(夢を生きる賞・夢を拓く)

「すみれプロジェクト」(すみれライセンス基金・パープルリボンプロジェクト)

- ・ 翻訳機能(英語・韓国語・中国語・フランス語・ドイツ語・スペイン語)・・・国際性
- ・ 会員によるリレーエッセイ
- ・ 会員専用ページ(パスワードの設置、連絡事項、議事録、アーカイブス)・・・会員の利便性向上
- ・ QR コードの導入
- ・ お問い合わせ

【HP 私たちが目指すもの】

私たちを取り巻くネット社会、SNS の急速な普及と発達の中で、HP は必要不可欠となってまいりました。

ブランドとしてのソロプチミストの情報の提供、会員にとっての、利便性。

今年6月で171話となる会員によるリレーエッセイは、会員同士のコミュニケーションだけでなく、クラブの顔の見えるものとして広く読まれております。

私たちのHPは、常に新しい試みによって、広い周知と意欲ある会員獲得にとその役割は広がります。

ぜひ、私たちのHPにお越しください！

<http://siksumire.org/>



私達は女性と女児の夢を応援する国際的なボランティア団体です

ニュース



2019年5月16日 歳祝いの会 ANAクラウンプラザホテル熊本本ニュースカにて開催されました。今年の歳祝会員は、傘寿3名、喜寿1名、古希3名、還暦1名の合計8名の方でした。…続きを読む



2019年5月28日 フォロアップ研修会開催 新入会員フォロー [Translate »](#)

プロジェクト

- 夢を生きて
- 夢を拓く
- 女性栄誉賞(クラブ賞)
- ソロプチミスト日本新聞
- すみれライセス基金
- パブリックプロジェクト

『夢プログラム』 夢を生きる

人生のさまざまな段階で遭遇しながらも、それを乗り越え、新たな人生を切り開こうとしている女性を募集します

対象：就職のため、または上級レベルの仕事を目指すために特別な技能・訓練・専門教育を必要とする女性

資格：家族に対して主な経済的扶養義務を負っている女性

賞金：クラブ賞 ※12万円(50歳未満=すみれ)

周知賞 ※20万円 20名(九州、沖縄のクラブ賞受賞者の中から)

未来へつなぐ賞 ※10万円 10名()

アメリカ贈賞 ※1位 5,000ドル 1名 ※2位 3,000ドル 9名 (アメリカ贈賞20名受賞者の中から)

すみれライセス基金

パブリックプロジェクト

今月のリレーエッセイ

リレーエッセイ

リレーエッセイ6月

花のように 宮原由花

春の生まれで、しかも命短に花という文字が持っている私は、誰か花が好きだった。私は幼い頃から大学卒業までずっと働いてきた。結婚し子供ができた後も仕事、母が病気で、3年前、私が病になり、主人や母親が亡くなった子供達に辛い思い出をさせてしまった。その頃から交際や顔の花を植えた。幼い子供達が死んでしまった時に少しは涙が止まらないようにとの思いがあった。

このようにいろいろな花々が家を飾った。(ただ決して行く旅に相談をしているということではない)毎日毎日、たくさんのおいしくして子供達を成長させた。家にはいつも花が咲いていた。

3年前の熊本地震では本震後、被災地に訪問し、人災のボランティア活動に参加した。10日経って、初めて自宅に戻った。被害の惨状に驚き、人災のボランティア活動に参加した。その時の光景を思い出し、驚きして戻った熊本から早くも日本各地に届くようになった。その時の光景を思い出し、驚きして戻った熊本から早くも日本各地に届くようになった。その時の光景を思い出し、驚きして戻った熊本から早くも日本各地に届くようになった。

私もそうならないかな。春は花の命に、誰かに愛しや死生を与えることができる人にならなければならない。・・・もちろん、自分のことではない

そんなことを思うながら、春の夜に涙を流すある日の夜であった。

カテゴリ

- 夢プログラム
- すみれライセス基金
- ソロプチミスト日本新聞
- チャリティ事業
- すみれライセス基金 (その他活動)
- リレーエッセイ